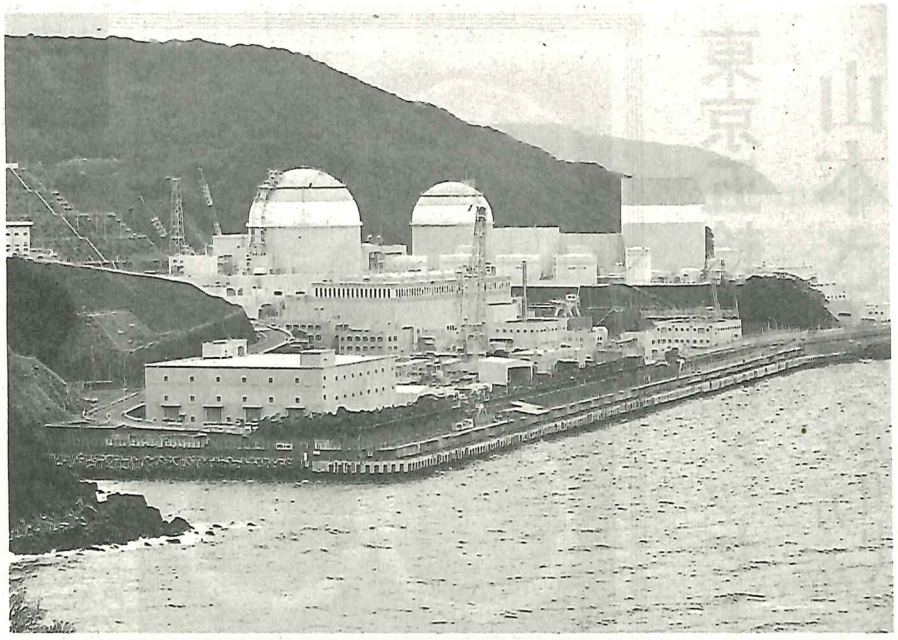
月ぎめ定価 3,400円（本体価格 3,149円、消費税 251円）・1部売り 150円（税込み） （第3種郵便物認可）

脳裏よぎる福島事故

トラブル続発 町民ら不安と不信

伊方 一時電源喪失

定期検査中に核分裂反応を抑える制御棒を原子炉から誤って引き抜くなど、1月に入り大きなトラブルが続発している四国電力伊方原発（伊方町）で、25日に起きた全交流電源の一時喪失。使用済み核燃料を冷却するプールの温度が上昇するという深刻な事態に至り、各方面に衝撃が広がった。一夜明けた26日、県内の脱原発団体からは四電への非難が噴出し、原発立地地域の住民からも原発容認、反対の立場を超えて厳しい声が相次いだ。次期衆院選の予定候補応援で来県した立憲民主党の枝野幸男代表も、伊方3号機のリスクを懸念し稼働させないよう求めた。



トラブルが相次ぎ、定期検査の作業が停止している伊方原発3号機（左）＝26日午後、伊方町九町（撮影・今西晋）

「福島（の原発事故）が脳裏をよぎった」―。伊方原発の地元・伊方町では、相次ぐトラブルに不安や不信を訴える声が異口同音に聞かれた。

高門清彦町長は「1月に入って4回目の異常通報を重大に受け止めている。一連の事象で四国電力と町、住民との間で築かれてきた信頼関係が大きく揺れている」と硬い表情。「個々の事案の原因究明に加え、組織的な原因がなかったかどうかも含めて調査、報告してほしい」と述べた。

大事故への危機感を抱いた住民は少なくない。名取地区の農業宮部元治さん(54)は不安げな表情を浮かべ「原発の運転を続けるには安全確保が大前提。前例のないトラブルが続くと、（運転に）反対せざるを得ない」。高茂地区の男性(78)も「かつて建設の仕事で原発にお世話になったが、それを加味してもひど過ぎる。今の状況で運転を続けてもらっては困る」と不満をあらわにした。

半島先端に近い三崎地区では、重大事故が起きた際の避難路が限られている。高齢の家族を介護する女性(68)は「もしものことがあったら本当に船で逃げられるのか。心の中ではもう運転再開しないでと願っている」と吐露した。

相次ぐトラブルが地域のイメージに与える悪影響を懸念し、原発立地の「恩恵」を受けてきた商工関係者からも厳しい見方。伊方原発に近い道の駅「伊方きらら館」（同町九町）では、にぎわう店内の中、中村和子店長が「ようやく町内にも観光客が増えてきつつあった状況なので本当に残念。かんきつなど農産物への風評被害も心配」と表情を曇らせた。

町商工会の井上喜樹会長は、トラブルの原因究明まで3号機の定期検査を停止するとした四電の対応に関し「すぐには経済的な影響は出ないと思うが、町全体の雰囲気が悪くなる。住民が安心できる状況で原発を動かしてほしい」。

同町松の今村七郎さん(73)は「短時間とはいえ、電源喪失と聞いたら驚く。絶対安全とは言えないのだから、長期的には原発に代わる地域の産業を本気でつくっていかなければならない」と訴えた。

（伊藤愛、今西晋）

伊方原発でトラブルが相次いでいることを謝罪する四国電力の渡部浩・原子力本部付部長（左）ら＝25日午後10時40分ごろ、県庁（撮影・今西晋）

運転する資格なし／慎重に扱う意識欠如

憤る県内反原発団体

脱原発を訴える県内の団体からは「四電には原発を運転する資格がない」「県民の命を預かっているという意識はあるのか」などと憤りの声が聞かれた。

「地震など自然災害による事故の発生は想像していたが、平穏な時に全交流電源を喪失するなど予想もしていなかった」。伊方原発をとめる会（松山市）事務局の松浦秀人次長(74)は驚きを隠せない。四電の姿勢に「安全性を強調するあまり、原発は危険な物で慎重に扱う必要があるという意識が欠如しているのではないか」と疑問を呈した。

県平和運動センター(同)は伊方原発での相次ぐトラブル発生や、3号機の運転を認めない広島高裁の仮処分決定を受け、23日に四電へトラブルの原因究明と廃炉を求める申し入れをしたばかり。若宮強議長(61)は「東京電力福島第1原発事故で深刻な事態を招いた全交流電源喪失は、数秒であっても起きてはならない『事故』だ」と指摘。「あきれてものが言えない。即廃炉の訴えをさらに強めなければ」と力を込めた。

「企業倫理としておかしい」。原発さよなら四国ネットワークの大野恭子さん(68)は、一連のトラブルの原因究明に集中せず、並行して他の定検作業も進めてきた四電の対応に厳しい視線を送る。

制御棒の誤った引き抜きや、3号機の燃料プール内でクレーンでつり上げていた燃料集合体がラックの枠に乗り上げたトラブルを受けて四電に厳重注意をした県に対しても「注意するだけでなく、県民の命を守る行政として、専門家らで構成する県伊方原発環境安全管理委員会で議論、調査するべきだ」とより踏み込んだ対応を取るよう訴えた。

（森岡岳夢）

絶対の安全ない 四電自ら停止を

来県の立民・枝野代表

伊方町を訪問した立民の枝野代表は、伊方3号機の一時的な電源喪失に言及し「原発に絶対の安全はないことが証明された。この状況で稼働を続けるのはリスクが高く自ら停止すべきだ」との認識を示した。

衆院選愛媛4区の応援のため来県し、報道陣の質問に答えた。

制御棒を誤って原子炉から引き抜いたトラブルにも触れ「重大な事故につながりかねない事象が相次いでいる。（伊方町は）万が一の場合の避難路も厳しい」と指摘。「原発に代わる電力と地域活性化策を示したい」と述べた。

立民はエネルギー政策として「原発ゼロ基本法」の制定を掲げており、国の責任ある避難計画が策定されないままの原発再稼働は認めないとの立場を打ち出している。

（今西晋）